

奈良市アートプロジェクト

基本構想

平成30年1月

奈良市アートプロジェクト実行委員会

1：構想趣旨

<前提>

奈良市は2016年、「東アジア文化都市」に選定され、「古都奈良から多様性のアジアへ」をテーマとして一年間様々な事業に取り組んだ。中でもコア期間の「古都祝奈良」と題したプロジェクトは、奈良が圧倒的な「場の力」を持つまちであることを内外に発信し、奈良が古来、多様性と包摂性を持って世界と向き合い、寛容と共生の精神をもって最先端の文化を取り入れてきたまちであることを、アートを通じて明らかにしようとした。

その結果、古都奈良の骨格を明らかし、奈良そのものを再定位するとともに、奈良が発信していくべき方向性を見出すことができた。

<趣旨>

この東アジア文化都市の趣旨を引継ぎ、現代社会がもつ様々な課題や事柄、今後、未来に対して、奈良が訴えていくべきこと、奈良がすべきこと、奈良だからできることを、掘り下げ考える機会とし、文化（アート）という窓を通じて、新たな価値の創造につなげていきたい。

2：事業概要

<名称>

ことほぐなら
古都祝奈良

これは、2016年の東アジア文化都市のコア期間のために作成されたタイトルである。世界遺産の社寺や平城宮跡での事業は「ことほぐなら」の響きとともに、SNSや雑誌等様々な広報媒体を通じて拡散し、「場の力」を活かした奈良の新しい事業として話題を集めた。今回のプロジェクトでも文化芸術の力で社会の課題を掘り下げようとする基本的なコンセプトは同様である。さらに再びこのタイトルを使用することは前回のファンの気持ちをさらに熟成させる効果と今後の情報の拡散力に弾みがつく効果につながると考え、「古都祝奈良」を事業名称として使用する。

<事業イメージ>

社会課題×アート
奈良

<展開方法>

事業の展開に当たって、課題やテーマ、イベント等に合わせて、

- ①実施する時期（タイミング）、
- ②対象（ターゲット）、
- ③場所（空間）を絞り込み、
- ④アートプロジェクトの実施によりもたらされる変化を期待するもの。

今回のプロジェクトは、アートイベントというよりは、取組みの過程を発信することに重点をおく。

事業規模よりも一つ一つの事業の意味や、社会に及ぼす影響力を仔細に分析する必要がある。その上でアートを手法としながら、アートの領域を超え、まちづくりの基盤づくりに積極的に関与できる継続的な事業展開をめざそうとするものである。

例えば、・奈良だからこそできるテーマ設定

- ・ピンポイントでも刺さる事業をコンパクトに実施する。
 - ・アートの分野はこだわらない。
 - ・コンセプトに賛同してもらえる方々
 - ・問題を抱えておられる方々
 - ・未来を創る若者
 - ・アーティストによる作品制作、奈良に期待する思いを発信
 - ・アーティストとの協働・制作・ワークショップ
- などの視点を取り入れて実施する。

3：広報・発信

この事業のポイントは、発信することにもあり、事業内容と同レベルの重要事項と位置付ける。ターゲットに応じた広報はもちろんのこと、発信ルートの開拓に努め、戦略的な発信を行う。

■一般向け活動 WEB、Facebook・TwitterなどのSNSを中心に、多様な層への情報発信を図る。

■パブリシティを活用した展開 費用対効果の高いパブリシティを活用し展開する。

■戦略的な発信

漫然とリリースするのではなく、内容に合わせたメディア向け活動や東アジア文化都市事業で培ったプレスリリースの配信等による情報発信を促す。特に海外向け広報の検討を行う。

4：実施体制

奈良市アートプロジェクト実行委員会が実施。委員については必要に応じて参加要請を行う。

事業の実行にあたっては、ディレクターもしくはプロジェクトリーダーを指名して行う。事務局は奈良市市民活動部に置く。

《平成29年度事業計画（案）》

以下の4事業により、次年度以降のプロジェクトの幕開けを宣言する。

(A-1) アート制作・展示による世界に向けてのメッセージ発信

■タイトル “花・Welcome” by チェ・ジョンファ

■時期・場所 平成30年3月9日～3月30日 奈良市役所（エントランス）

■テーマ 作品制作を通じ、奈良市から世界に向けてのメッセージを発信し、本市のアートプロジェクトの幕開けを発信する。

■実施意図 東アジア文化都市のレガシーを活かす事業であることを意識し、世界的なアーティストであるチェ・ジョンファ氏（「東アジア文化都市2017京都」参加アーティスト）を招へいし、彼の作品展示を市役所で実施する。

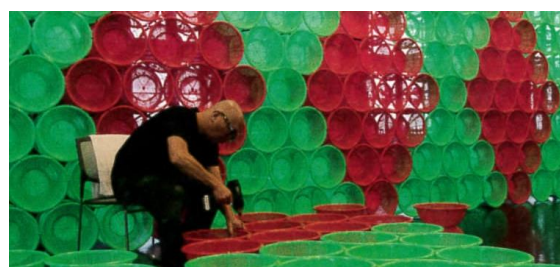
市役所で展示を行うことによって、奈良から世界平和構築へのメッセージを発信すると共に、奈良市がこれからアートによって社会に対する変化を仕掛けていこうとしている意気込みを表現する。

①時期	平成30年度に始動するプロジェクトの幕開けを告げるのに相応しい時期。 また、チェ・ジョンファ氏は平昌冬季パラリンピック開・閉会式のアートディレクターであり、展示時期はパラリンピックの開催時期と重なる。2020年の東京オリンピック・パラリンピックの気運を高め、平和の祭典であり、スポーツのみならず文化の祭典でもあるオリンピック・パラリンピックの精神を、奈良の地から彼のメッセージによって発することができる。
②ターゲット	市役所を訪れる一般市民、アートに興味を持つ人
③場所	市役所で行うことによって、奈良市の意気込みを表わす。
④もたらす変化	制作に携わった人、作品を見た人、メッセージの受け手の意識を変える。

○作者プロフィール

チェ・ジョンファ 1961年ソウル生まれ、同在住。現代アーティストでありながら、アート・ディレクションやインテリアデザインも手がけ、多様な分野で国際的に活躍する。街中や人々の生活など日常の中にあるイメージや素材を用いながら、見る者に新たな視点を気づかせる、ユーモラスで色鮮やかな大規模作品を制作する。国内外の数多くの国際展に出展しており、リヨン・ビエンナーレ(2003年)のために制作された花樹は会期終了後も展示され、街のシンボルとなるなど、その作品は多くの人々に親しまれる友好的なものが多い。

「東アジア文化都市2017京都」の参加アーティスト。



《Air Air》(2017)制作風景

(A-2) ワークショップ

■タイトル Happy Happy

■時期・場所 ワークショップ 平成30年2月20日～3月5日
 作品展示 平成30年3月9日～3月30日
 奈良市ならまちセンター

■テーマ アートはまちづくり・人づくりにどのようにコミットできるのか

■実施意図

これまでにチェ・ジョンファ氏はザルを使ったアート作品（東アジア文化都市 2017 京都では1万個のザルを使ったアート作品を出展）を手がけているが、そのザル（6,000個）を借り受け、西尾美也氏の指導により、一般募集した市民と共に、アート作品を創り上げる。

様々なターゲット（障がい者、幼児、青少年、高齢者など）の人たちにアート作品の制作に関ってもらい、自分自身が変わること、まちが変わること、それを見た人が変わることを実感してもらう。

制作を行う過程を広く発信し、どのようなメッセージを発することができるかを、参加者とともに考える。

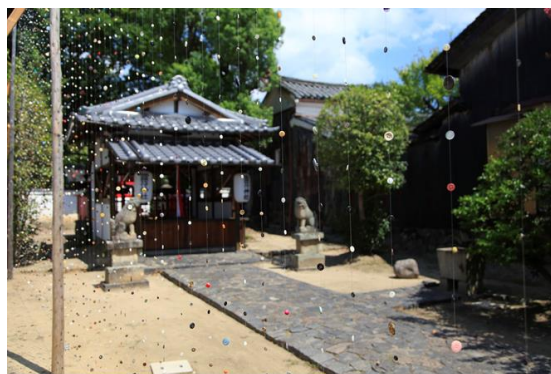
（協力：奈良県立大学西尾研究室）

①時期	平成30年度に始動するプロジェクトの幕開けを告げる。
②ターゲット	あらゆる年齢層、職業、性別、国籍を問わない。アートに興味のある人、ない人だれでも参加できる。
③場所	ならまちセンター
④もたらす変化	参加者が社会問題に気づき、それを多くの人と共有する。

○美術部門プロジェクトリーダー プロフィール



西尾 美也 1982年、奈良県生まれ。奈良県立大学地域創造学部専任講師。2016年あいちトリエンナーレ、さいたまトリエンナーレ、2014年六本木アートナイト等多数のプロジェクトに参加。装いの行為とコミュニケーションの関係性に着目し、地域住民や学生との協働によるプロジェクトを国内外で展開。「東アジア文化都市 2016 奈良市」の参加アーティスト。



(左)《人間の家》(2016 古都祝奈良)
 (右)《ボタン／雨》(2016 古都祝奈良)

(A-3) アートディスカッションイベント

■タイトル 「~~生生活活—生きることとアート~~」

■時期・場所 (仮)平成30年3月19日以降 まちなか (~~ならまちの町家など~~)

■テーマ アートはまちづくり・人づくりにどのようにコミットできるのか

■実施意図

アートには「社会の問題を提起する力」があるとともに、「会話をもたらす力」がある。

チェ・ジョンファ氏に、なぜ奈良でこのような作品を制作しようと思ったのかを、直接本人に語っていただき、その話の中から問題提起を行い、アートを通じて社会問題を考えるきっかけとなるようなディスカッションとする。(コーディネーター：西尾美也氏)

このディスカッションに参加した人々が自分を取り巻く背景を理解し、それを語ることによって、「社会に変化をもたらす力」が生まれることをめざす。それをネット中継などの手段も使いながら、広く発信していく。

①時期	平成30年度に始動するプロジェクトの幕開けを告げる。
②ターゲット	あらゆる年齢層、職業、性別、国籍を問わない。アートに興味のある人、ない人にかかわらず、少人数でもできるだけ広範囲の人を巻き込む。
③場所	まちなか (ならまちの町家など)
④もたらす変化	会話の中から参加者が社会の問題に気づき、情報を発信し、自らと社会の変化を求める。



~~会場イメージ:奈良女子大学セミナーハウス(ならまち)~~

別の場所を検討中です。

(B) 青少年と創る演劇

■実施概要

昨年実施した東アジア文化都市事業で実施した「高校生と創る演劇」では、参加した高校生が、舞台芸術部門のディレクター平田オリザ氏に「期待以上の成果をもたらし、未来への希望の道筋を示してくれたことは、芸術監督として何よりの喜びであった」と言わしめるほどの素晴らしい発表を行った。

この“ならのはこぶね”をベースに、新しいメンバーでプロの演出家（演劇部門プロジェクトリーダー・田上豊氏）と共に、昨年とは違った“ならのはこぶね”を創る。

次代を担う若者が演劇を創作する過程を経験することによって、創造する喜びを味わうとともに、奈良を題材とすることによって、ふるさと奈良への愛着や気づきを得ることを目的とする。

今年は参加対象を中学生まで広げ、より未分化で初々しい感性が表出する演劇を目指す。また演劇経験者だけでなく、演劇未経験者にも広く呼びかけ、自己を表現することによって自身の可能性を広げることにも目覚める機会としても位置づける。

①時期	平成 30 年度に始動するプロジェクトの幕開けを告げる。 (来年度以降は中学・高校生の活動を考慮し、日程を調整する。)
②ターゲット	何がしたいかわからず悩んでいる中学・高校生、演劇に興味を持つ中学・高校生、創作活動に興味のある中学・高校生
③場所	ならまちセンターは昨年の発表会場でもあり、今後演劇発表の拠点として定着させていきたい場所である。
④もたらす変化	青少年に自己を表現することによって変われる自分に気づかせる。 若者の演劇文化を奈良に定着させる。

○スケジュール

- 1月23日(火) 平田オリザ氏による演劇入門ワークショップ
- 2月3日(土) 4日(日) 青少年と創る演劇 オーディション
- 3月30日(金) 青少年と創る演劇 公演

○演劇プロジェクトリーダー プロフィール



田上 豊 1983年熊本県生まれ。桜美林大学文学部総合文化学科卒業。2006年、劇団「田上パル」を結成。方言を多用し、疾風怒濤のテンポと、遊び心満載の演出は「体育会系演劇」とも評される。大学在学中にワークショップデザインを研究し、現在、教育現場を中心に、創作型、体験型のワークショップを全国各地で実施している。演劇部の嘱託顧問や、総合高校での表現科目「演劇」の授業を受け持つなど、教育現場での経験も持つ。高校生、大学生とのクリエーション、リーディング、市民劇団への書き下ろしなど、劇団外での創作活動も展開。現在、富士見市民文化会館キラリふじみアソシエイトアーティスト、青年団演出部所属。「東アジア文化都市 2016 奈良市」で「高校生と創る演劇」の演出を行う。

《平成 29 年度 予算（案）》

事業費としては、実行委員会が支出する経費として以下の事業費を見込む。

[収入]

単位：千円

費目		平成 29 年度	備考
市負担金収入	国庫支出金	3,750	文化芸術創造活用プラットフォーム形成事業補助金を活用
	市支出金	3,750	
合計		7,500	

[支出]

単位：千円

費目	平成 29 年度	備考
事業費	6,000	現代アート、演劇等主要事業
広報費	1,000	広報宣伝費
事務管理費	500	事務費、運営費
合計	7,500	

《平成 30 年度以降 事業計画（案）》

(A-1) アート制作・展示による世界に向けてのメッセージ発信

■実施概要

平成 29 年度に引き続き、時期や場所を計って、いくつかのアート作品の制作を行っていく。

例えば

- ・国際的に活躍するアーティストの作品を 1 つ、最も象徴的なタイミングで制作する。
- ・年間を通じて、数人のアーティストの作品を、それぞれ最も相応しい時期・場所を選んで制作する。

①時期	世界遺産登録 20 周年、奈良市制施行 120 周年、日仏友好 160 周年などの節目に合わせるなど、効果的なタイミングを探る。
②ターゲット	作品の内容によって、子ども、高齢者、障がい者、学生など、絞込みを行う。
③場所	テーマ設定に相応しい場所を選定する。
④もたらす変化	作品を見た人、メッセージの受け手の意識を変える。

(A-2) ワークショップ

■実施概要

一般募集した市民と共に、アート作品を創り上げる。

様々なターゲット（障がい者、幼児、青少年、高齢者など）の人たちにアート作品の制作に関ってもらい、自分自身が変わること、まちが変わること、それを見た人が変わることを実感してもらう。

制作を行う過程を広く発信し、どのようなメッセージを発することができるかを、参加者とともに考える。

①時期	作品制作のタイミングと合わせる。
②ターゲット	作品の内容によって、子ども、高齢者、障がい者、学生など、絞込みを行う。
③場所	作品の設置場所
④もたらす変化	参加者が社会問題に気づき、それを多くの人と共有する。

(A-3) アートディスカッションイベント

■実施概要

アーティストに作品制作の意図を語っていただくところから会話の糸口を見つけ、参加者に会話を促す。会話から生まれる気づきが社会を変える力になることをめざして、アート作品の制作に合わせて実施する。

①時期	作品制作のタイミングに合わせて実施する。
②ターゲット	あらゆる年齢層、職業、性別、国籍を問わない。アートに興味のある人、ない人にかかわらず、少人数でもできるだけ広範囲の人を巻き込む。
③場所	まちなか（ならまちの町家など）
④もたらす変化	会話の中から参加者が社会の問題に気づき、情報を発信し、自らと社会の変化を求める。

(B) 青少年と創る演劇

■実施概要

中学・高校生の参加者を募集。オーディションを経て出演者を選定し、プロの演出家の下、共に新作の演劇作品を創作する。本番に向けての稽古の過程を重視すると共に、この事業を持続的に進めていくための仕組みづくりも視野に入れて実施する。

①時期	中学・高校生の年間学校スケジュールに照らし、一番好ましい時期を設定する。
②ターゲット	何がしたいかわからず悩んでいる中学・高校生、演劇に興味を持つ中学・高校生、創作活動に興味のある中学・高校生
③場所	ならまちセンターは昨年の発表会場でもあり、今後演劇発表の拠点として定着させていきたい場所である。
④もたらす変化	青少年に自己を表現することによって変われる自分に気づかせる。 若者の演劇文化を奈良に定着させる。

《平成 30 年度予算規模（案）》

[収入]

単位：千円

費目		平成 30 年度	備考
市負担金収入	国庫支出金	8,000	文化芸術創造活用プラットフォーム形成事業補助金を活用
	市支出金	8,000	
合計		16,000	

[支出]

単位：千円

費目		平成 30 年度	備考
事業費		12,000	現代アート、演劇等主要事業
広報費		3,000	広報宣伝費
事務管理費		1,000	事務費、運営費
合計		16,000	